

○議長（金堂清之君） 2番、榊朋之議員。

榊議員は時間制にて質問いたします。

○2番（榊朋之君）〔登壇〕 2番、榊朋之でございます。

今回は一般質問の機会をちょうだいいたしまして、まことにありがとうございます。本日は市長に、春日市におけるスポーツ振興支援のあり方について御質問させていただきます。初めての一般質問でございます。ふなれな点ばかりで御迷惑をかけると思いますけれども、何とぞ御了承いただきますようお願い申し上げます。

さて、去る平成23年7月17日、ドイツで開催されておりましたサッカー女子ワールドカップ決勝戦におきまして、世界ランク1位のアメリカを相手に、日本女子代表チーム、通称なでしこジャパンが、延長PK戦の末勝利し、世界一の称号を手に入れました。世界で最も競技人口の多いこの大会にあって、この結果はまさに歴史に残る快挙であります。

歓喜の輪の中でトロフィーを掲げる日本選手の姿は、震災後どこかふさがちだった我が国に大変明るい希望と感動と、そして勇気を与えてくれたものと考えております。平均身長160センチ足らずの小さな日本人選手たちは、体格で大きくまさる欧米の選手たちに気持ちで決して負けることなく、その愛称の大和撫子のごとく、小さくてもしなやかに、そして最後まであきらめずに耐え忍び、大輪の花を咲かせてくれました。早朝であったにもかかわらず、日本じゅうが熱く燃えた瞬間でありました。

その後のなでしこフィーバーは、皆様御存じのとおりでございます。若干政治的な意図が見え隠れしますが気がにはなりますけれども、団体として初めて国民栄誉賞も受賞いたしました。この受賞は、なでしこジャパンのみならず、日本女子サッカーに関係するすべての関係者に与えられた感謝と敬意のあらわれであると考えております。

また、おとといまで開催されておりましたロンドンオリンピックアジア地区最終予選におきましても、過酷なスケジュールの中、見事無敗でオリンピック出場権を獲得いたしました。今後ますます有力なメダル候補として、彼女たちへの期待は高まっていくものだと思います。

日本女子サッカーチームは、トップリーグでありますプレナスなでしこリーグを頂点とする組織でございます。なでしこリーグは現在9チームで構成され、日本代表のほとんどの選手がここから選出されております。このなでしこリーグに、本春日市に本部事務所を置く福岡J・アンクラスも所属いたしております。これは九州はもとより、広島以西では唯一の女子サッカートップリーグ所属のチームでございます。

男子サッカーはJリーグ発足以前から地域に根づいた活動を進めており、ここ春日市においても数多くのクラブチームを有しております。高校でも東福岡高校や筑陽高校などサッカーの名門・強豪校を近隣に有し、また上部リーグのJ2・J1のサガン鳥栖やアビスパ福岡、またこのユースチーム、そして現在世界最高のクラブチームでありますスペイン1部リーグのFCバルセロナ、これは通称バルサと申しますけれども、このユースチームも存在するなど、広くすそ野のジュニアからトップまでの競技環境が整っております。

しかしながら、女子サッカーは男女一緒にプレーできる中学生まではよいのですけれども、

その後活躍の場や機会をなくし、競技を断念する選手も多く存在するなど、地域においてはまだまだ環境が整っていないというのが、世界大会で優勝した我が国にあっても実情であります。その意味においても、サッカーという限られた競技ではありますが、日本におけるトップリーグに所属する九州唯一のチームがこの春日市に存在するということは、まさに天佑であり、非常に恵まれた環境にあると言えるものでございます。「女子でサッカーを目指すなら春日市で」、そんな土壌が既にあるということではないでしょうか。

結果としてブームに乗った形となった今回の質問ではございます。これまで日の当たらないところで地道な努力を続けてこられた関係者の皆様に心からの敬意を表しますとともに、遅過ぎた話であるとおわびを申し上げます。

しかしながら、注目を集め出したとはいっても、福岡 J・アンクラスには現在、プロ契約の選手は一人もおらず、練習環境も決して恵まれているとは言えません。また、クラブ経営も決して資金が豊潤というわけもなく、大変厳しい状況が続いていると漏れ伝え聞いております。

現在、福岡 J・アンクラスからは日本代表は選出されておられません。しかし、ミッドフィルダーの川村選手は日本代表に最も近い選手と、大変注目されておりますし、ほかにも将来有望な選手は数多く存在いたします。今後の支援のあり方によっては、来年のロンドンオリンピックへの出場も決して夢ではありません。春日のチームから世界代表、そして春日市内で凱旋パレードをと、そういった胸躍る場面を夢想してやまない私でございます。

ここで市長にお尋ねいたします。この際、幸いにも我が市に本拠地を置く女子サッカートップチーム、福岡 J・アンクラスがこの春日に存在する現状を踏まえ、このチームに対して直接的な金銭による支援、もしくは支援をしてくださる企業、団体等を広く募るといった間接的な支援も含めて、今後、市として支援を行う考えはございますか。

過去 J リーグの興隆期において、身の丈に合わない過剰な投資を行いはしたものの、現在までその財政的な負担を長く強いられている自治体もあります。あのころのような浮かれた支援ではなく、長く続く息の長い支援の形をきっとチームも望んでいると考えます。特定の競技で、かつ特定のチームに対する支援と言え、若干抵抗はあるように感じますが、これは女子サッカー組織の頂点への支援であり、ひいては青少年、少女の健全育成に深く関与するスポーツ全般への支援としてこれをとらえ、夢のある御回答をいただければ幸いです。

また、今回の議会に（仮称）総合スポーツセンターの基本設計から本設計の予算案が上程されております。大きな事業でありますので、市民も非常に大きな関心を持って注目しているところでございます。この中で、先ほどの質問とも関連いたしますが、サッカーの競技、練習環境の整備を行うお考えはおありでしょうか。

せっかくトップリーグに所属するチームがあっても、練習環境を整えるということは、一クラブではなかなか行えることではございません。また、サッカーという競技の特性上、敷地を多く占有しますし、当初設計の段階でこれを組み込んでいただかなければ、後戻りができるものではないと考えておるところでございます。スポーツに対する支援の一環として、こうした方針も基本設計の中にぜひ加えていただきたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

以上2点につきまして市長のお考えをお聞かせくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（金堂清之君） 井上市長。

○市長（井上澄和君）〔登壇〕 榊議員から、スポーツ振興支援についての御質問でございます。

まず、福岡J・アンクラスに対して、今後市として直接的、間接的な支援を行う考えがあるのかとのお尋ねにお答えいたします。

日本女子サッカーにつきましては、先般行われました女子サッカーワールドカップにおいて見事初優勝し、日本国民に勇気と感動を与えたとして、国民栄誉賞を受賞したところでございます。代表チームの選手はそのほとんどが日本女子サッカーリーグ1部、いわゆるなでしこリーグの所属で、福岡J・アンクラスもここに所属する九州で唯一のチームであります。

福岡J・アンクラスの支援につきましては、先ごろ県内に拠点を置くサッカーのJ1アビスパ福岡とJ2ギラヴァンツ北九州、なでしこリーグの福岡J・アンクラスが福岡県知事を表敬訪問し、その際、小川県知事の「県民を挙げて応援していきたい」とのコメントが報道されたところでございます。

春日市における支援につきましては、今後なでしこリーグに所属する各チームの地元自治体の支援状況などを調査し、福岡J・アンクラスに対する春日市としての支援のあり方を研究してまいります。

次に、スポーツ支援の一環として、サッカー競技の練習場をスポーツセンター基本設計の中に取り入れてはどうかとのお尋ねにお答えいたします。

現在、春日市では市スポーツセンター、屋外競技場や小中学校の校庭などで、57チームが定期的にサッカーの練習や試合を行っているところでございます。これらのチームは春日市体育協会や春日市スポーツ少年団に所属するもの、総合型地域スポーツクラブ「春日イーグルス」に所属するもの、また市内外の一般サッカーチームがあり、各チームとも熱心に練習や試合に励んでいるところであります。

したがいまして、福岡J・アンクラスの練習環境を整備していくということは、これらチームとの調整や、現在サッカーの練習や試合で使用している施設の検証が必要となってくることが考えられます。今後、基本設計に入れていくことは、利用可能なスペースの絶対的不足から甚だ難しい問題もございますので、研究課題とさせていただきたいと考えております。

○議長（金堂清之君） 2番、榊朋之議員。

○2番（榊朋之君）〔起立〕 2番、です。

御答弁どうもありがとうございました。何よりも市長が福岡J・アンクラスについて御理解をいただいておりますことに、心からお礼を申し上げます。関係者も大変喜んでいらっしゃると思います。各自治体とのですね、かわりを調査されるというお言葉をちょうだいいたしました。

岡山県に美作市というのがございます。「美しくつくる」と書きますけれども、美作市。こちらに岡山湯郷ベルという、これも同じなでしこリーグの1部所属のチームがございます。日本代表のミッドフィルダーで、プレースキックをけらせたら世界最高峰と言われる、今もテレ

ビで活躍をよくしておりますけれども、宮間選手を擁するチームでございますけれども、この美作市、先日の日本代表の合宿もこの美作市で行われましたので、お聞き及びの方も多いかとは思いますが、この美作市は岡山湯郷ベルに対しまして大きな支援を行っております。

この市がチームに対して行っております支援が、まず補助金として年間1,300万円、監督を市の職員として雇用している、またスポーツ振興課がチーム事務局として運営の補助を行うといったものでございます。また、西日本有数の施設を誇ります美作ラグビー・サッカー場、これは岡山県の施設なんですけれども、これを市が指定管理者として県から委託を受けて管理を行い、地域振興をねらいとした女子サッカーチームによる町おこしプロジェクトを推進しております。現に先日行われました日本代表合宿では、五日間で人口よりもはるかに多い約5万人が美作市を訪れ、市の観光課はまさに面目躍如といったところであったとお伺いいたしております。

何分、町おこしとして、市政の中心としてとらえるといった背景も違いますし、美作市は人口3万7,000人に対して一般会計規模が280億と、財政の基礎も違います。一概に参考になるとは申しませんが、事例としてこういった例もございます。スポーツ競技に対する行政のかかわり方の形として、御参考になればと思いますけれども、こういった事例について御感想があれば、ぜひお伺いしたいと思います。いかがでございますでしょうか。

○議長（金堂清之君） 井上市長。

○市長（井上澄和君）〔登壇〕 スポーツ競技に対する行政のかかわり方の形としての感想をお尋ねをいただきました。

人口3万7,000人の岡山県美作市の女子サッカーチームによる町おこしは、まさに地域課題に立った地域振興を進めておられまして、心から敬意を表するものでございます。

御案内のとおり、本市の実態にかんがみした場合、美作市のような地域おこしの意味でのイメージづくりにはなじまないところがございます。したがって、せっかくの御提案でございますが、残念ながら難しい問題があるように受けとめております。

○議長（金堂清之君） 2番、榊朋之議員。

○2番（榊朋之君）〔起立〕 はい、大変厳しい御回答で。

以前ですね、Jリーグがこの人気にあやかろうとですね、チームの誘致合戦を各自治体が行ったという過去がございます。実際、静岡で活躍をしておりました藤枝ブルックスを福岡に招致したのが、現在のアビスパ福岡の前身であります。これだけですね、女子サッカーの人气が高まってくると、福岡J・アンクラスにもそういった誘いがかからないとも限らない。

ぜひですね、少しでも、またできることから結構でございます、先ほどの美作のように丸抱えでという形では当然ないと思いますが、支援の形を早急に具現化をしていただきたいというふうに考えております。また、その際にはぜひ市長に応援団長として、行政以外の企業にも支援の輪を広げる音頭をとっていただきたいと思います。どうかよろしく願いしたいと思います。御答弁でございますでしょうか。

○議長（金堂清之君） 井上市長。

○市長（井上澄和君）〔登壇〕 福岡 J・アンクラスの支援について、できることから支援の形を早急に具現化していただきたい、また市長が応援団長をしてはどうかとのお尋ねにお答えいたします。

本市では、スポーツに限らずさまざまな分野で活躍している市民や団体に対して、有形無形の支援を行っております。なでしこリーグで活躍されている福岡 J・アンクラスの支援については、まず多くの市民の盛り上がりが必要ではないかと思っております。市民の声援の中で市民が育てていく、そこに行政としての支援を行うという関係が望ましい姿ではないかと考えております。

また、私を応援団長の件でございますが、御推薦いただいて本当にありがとうございます。しかしながら、応援団長は行政の長といった肩書ではなくて、やはり市民の盛り上がりの中で、サッカーに情熱を持った、もっともっとふさわしい方がたくさん市民の中におられるのではないかと考えております。そういうことで、もう少しやっぱりこの市民の盛り up を、まず私どもも側面的に支援をしていきたいなというふうな、そういう今気持ちを持っておりますので、ぜひよろしく御理解いただきたいというふうに思います。

○議長（金堂清之君） 2 番、榊朋之議員。

○2 番（榊朋之君）〔起立〕 2 番、・でございます。

どうも本当に市長、ありがとうございます。どうかですね、市長のお言葉にもありましたように、市民の盛り up があってのことという大前提ではございますけれども、どうか行政といたしましても、今後も前向きに御検討いただきますようお願いを申し上げます。

さて、（仮称）総合スポーツセンターの件ですが、先にお断りをしておきますけれども、これだけサッカーにかかわる質問をしておきながら、私、実は私自身、サッカーとは何の縁もゆかりもございません。アンクラスともきのう初めてお会いをさせていただいたというような次第でございます。ただ、スポーツ環境の整備という点に関して、サッカーに例えを置いた御質問を差し上げておりますことを御了承いただきたいと思います。

この市民からも非常に関心が高いスポーツセンターの、これから具体的な基本設計に入っていくわけなんでしょうけれども、こういった総合スポーツセンターを設計、運営していく中でとかく行政が陥りがちな失敗が、すべての競技に配慮する余り、どれも平均点で特色がないものになりがちだということではないでしょうか。それはぜひ避けていただきたいと私は考えております。

今回の一般質問の一覧を拝見させていただきました、このスポーツセンターへの関心の高さがうかがわれます。さまざまな御意見があると思います。そもそも反対の方、また経費削減を望まれる方。私はと申しますと、特色のある、将来、他自治体に対しても誇れる財産として存在し得るのであれば、予算規模をさらに拡大したすばらしい施設があってもいい、このように考えております。

女子サッカーにおいて日本のトップチームの一つがこの春日に存在いたしますので、今回ぜひこの競技に対して御配慮をいただけないかといった趣旨のお願いを申し上げますが、

もしかするとこれはサッカーでなくてもいいのかもしれない。ただ、例えば野球の競技を行うなら春日で、アーチェリーの競技を行うなら春日でといった特色の出し方が、こういった施設においてはあっていいのではないのでしょうか。そういった考え方を基本設計の段階からお含みおきいただきたいと考えておりますが、いかがでございますでしょうか。

○議長（金堂清之君） 山本教育長。

○教育長（山本直俊君）〔登壇〕 井上市長でなく私が御答弁させていただく意味は、施設の特色というコンセプトにかかわることでございますので、教育委員会としての立場から答弁をさせていただくことをお許しいただきたいと思います。

春日市内のスポーツ施設の中心的な役割を果たします機能と規模を備えた、市民の生涯スポーツセンターの特色ある総合的な拠点施設となるよう、鋭意取り組みを進めていきたいと思っております。

以上です。

○議長（金堂清之君） 2番、榊朋之議員。

○2番（榊朋之君）〔起立〕 2番、・でございます。

御答弁ありがとうございます。まあ、特色づくりを進めていただきたいというふうにしておるんですけれども、今一番ですね、議員、私どもが感じているのは、仮に基本設計から実施設計への予算が可決されたときに、一体どういう絵が見えてくるんだろうということなんですね。行政の皆様の立場からすれば、敷地や予算に限りがある中で、全員の声の意見集約ほど難しいものはないということは重々承知をいたしております。が、やはりですね、途中の過程がなくて、「はい、これです」という形で鳥瞰図や設計図が出てくると、やはり我々としても「いや、ちょっと待ってくれ」ということになると思うんですね。

今もお話に出ましたが、コンセプトを作成する段階、またそれを図面に落としていく段階、そういったそれぞれの過程においてですね、できれば我々議員たちにもその過程、経過を詳しくお示しいただき、コンセンサスの形成を行ってほしいと考えておりますが、いかがでございますでしょうか。

○議長（金堂清之君） 井上市長。

○市長（井上澄和君）〔登壇〕 ただいまのコンセンサスの形成についてのお尋ねにお答えいたします。

基本設計等に当たりましては、議会を初めスポーツ関係団体等の御意見をお伺いしながら、よりよい充実した施設になるよう努めてまいりたいと考えております。

○議長（金堂清之君） 2番、榊朋之議員。

○2番（榊朋之君）〔起立〕 ありがとうございます。ぜひですね、今もお話いただきましたように、途中途中で経過、また過程等をお知らせいただきますように、重ねてお願いを申し上げます。

先ほども申し上げましたとおり、議員の皆様、私も含めてですけれども、当然、地域や関係諸団体の身近な声をふだんからお聞きになられております。どうかですね、そういった声を反

映させていただく仕組みづくりを行っていただいて、今後の（仮称）総合スポーツセンターの計画を、行政と議員がまた足並みをそろえて進めていけるように、御配慮、御努力を重ねてお願いいたしまして、私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。